

平成の30年間を総括し、新しい時代（元号）に期待する！！

今上陛下は、85歳のご会見の中で、ご自身の生涯を振り返られ、特に平成においては相次ぐ地震・豪雨に拠る被災者に心を寄せ続けられ、慰問に訪れられると、ご自身がご老齢にも関わらず、膝を折り、お声がけをされ、被災者を勇気づけられました。

そして、硫黄島・サイパン・パラオ・フィリピン等の大東亜戦争の激戦地のご慰問もなさいました。（GHQが、今上陛下の昭和23年の誕生日に合わせて、所謂A級戦犯の7名の処刑を執行するという生涯、忘れることのできない無礼で非道極まることをしたことには一切触れられず）

硫黄島では、“精根を込め戦ひし人未だ 地下に眠りて島は悲しき”と、詠われました。

私には、陛下が81歳の誕生日に『常により良い日本をつくる努力を続けることが、残された私どもの義務であり、後に来る時代への責任である』と述べられたことが、今も、心の底に重低音のように響き、毎日を真剣に生きなければ、陛下に、日本に、お客様に、社員に申し訳ないと反省させられ、気持ちを奮い立たされています。

さて、我々中小企業の社長は、平成の30年間を総括し、来るべき新時代（新元号）に向けて、心の準備をしておくことが大切です。良いも悪いも、社長の過去の判断行動の集積が、現在の我社の実績を創り上げています。そして、今日の社長の判断行動が、将来のあるべき我社の姿を形成します。

来年の干支は、己亥（つちのと・ゐ）俗にいう、ゐ（亥・猪）年です。一念発起・道筋を正しくして、物事の乱れを治めて、整えて行く年だそうです。

先行きが見通せない中で、人口減少・高齢化による人手不足がますます酷くなることは間違いないでしょう。

国際的には、米中の経済戦争と呼ばれる不安定な時代に突入し、我が国も他人事では済まされません。国防面では、自衛隊から、正式な軍隊に自立する秋です。

激変する時こそ、歴史に学び「不易・流行」を、しっかりと押さえて参りましょう。

我社にとって、何が「不易」（変えてはならないこと）なのか。

我社にとって、何が「流行」（変えなければならないこと）なのか。

どちらにも極端に偏らず、高度に、バランスよく維持し、正しい判断ができるよう、社長自身が、読書と師匠から学び続け、正しい事を実践躬行して参りましょう。

社長と御社にとりまして、平成31年が、素晴らしい年でありますように。



今月のポイント

正面突破の一年です。